進捗報告書 （実行団体）

事業名:	ゲストハウスを活用した生活困窮者支援事業
資金分配団体:	特定非営利活動法人北海道NPOファンド
実行団体名:	株式会社 PLOW
実施時期:	2020年11月～2021年　月
事業対象地域:	北海道
事業対象者:	ホームレス状態にある生活困窮者

Version 1.0

日付： 2021年4月20日

Ⅰ．事業概要

事業概要
本事業は、感染症災害によるホームレスの増加に対応するための居住確保を進めると同時に、ゲストハウスの交流機能を活かして、社会的孤立の問題に対する新しいアプローチを実施・普及する。さらには、ホームレス状態の生活困窮者が多く存在する札幌市とは異なり、一棟借上等による大型シェルター・支援付き住宅の整備が難しい地域において、ゲストハウスを活用したホームレス状態にある生活困窮者支援のノウハウ移転を試みる。今事業期間においては、札幌市のとなりに位置する江別市で、ゲストハウス「ゲニウス・ロキが旅をした」を運営する合同会社ロキに対し技術指導をすることで、当団体の取り組みの横展開を図ろうとするものである。

Ⅱ．進捗報告の概要

総括
2020.10月より始まった本事業は2021.3月末までに札幌の「UNTAPPED HOSTEL」にて延22名、５７４泊。また、江別のゲニウス・ロキが旅をしたでは延2名76泊の利用があった。各々の事情は異なるが、明らかにコロナウイルス感染症の影響によって仕事と住まいを同時に失った30～５０代も多く見られ、状況の深刻さを垣間見た。ただし、ゲストハウスをシェルターとして活用することで、社会と断絶され隔離されがちな困窮者の入居者同士の交流やホステルスタッフとの交流、またはボランティアスタッフとの交流が生まれ、活力を取り戻す人たちも多くいた。これはゲストハウスの利活用が功を奏した大きな成果と思われる。

Ⅲ.活動実績

アウトプット（今回の事業実施で達成される状態）	進捗状況
①シェルターの交流機能が強化される（UNTAPPED HOSTEL） ②支援付き住宅の供用を開始し、入居者への生活支援が実施される（UNTAPPED HOSTEL） ③シェルターの運用が開始し、一時居住支援が実施される（ゲニウス・ロキが旅をした） ④ホームレス状態にある生活困窮者と地域や旅人との交流が生まれる（ゲニウス・ロキが旅をした）	①入居者と地域の人たちとのBBQが行われたり、炊き出しを行なったり、交流の機会をいくつも設けたことによる入居者×入居者の交流のみならず、入居者×ホステルスタッフ、入居者×地域住人の交流がたくさん生まれた。また、このような活動を通して、UNTAPPED HOSTEL自体も地域の信頼を得て、良い循環が生まれていた。炊き出しでは100人以上の来訪者があり、本来支援される側の入居者がボランティアとして参加したり、など、新たな交流・支え合う形の兆しを見ることができた。 ②現在、コロナウイルス感染症の影響が長引き、収束が見えにくい状況となっている。その為、新たな支援付き住居を契約し、生活支援を進めていくには本業との兼ね合いの中で難しい状況となっている。 ③現在もなお、2名の受け入れを行っており、これまでの宿泊事業から一時居住支援事業が定着している。累計で76泊の利用もあることから、大都市圏以外にもニーズがあることを表している。 ④「ゲニウス・ロキが旅をした」が位置する大麻銀座商店街が商店街ぐるみで困窮者の支援に協力する体制が見て取れる。スタッフも食材の買い物に同行し、ともに調理・食事をすることで信頼を深め合い、その場所ならではの支援を含めた交流が見受けられる。

活動	進捗状況	概要
ゲストハウスを活用したホームレス状態にある生活困窮者への一時居住支援	計画通り	2020.10～2021.3までの半年での利用者は22名。年齢の幅は広く10代から80代までを受け入れてきた。行き場を失ってしまった彼らに3食と暖かい寝床を提供できていることは確かな成果と捉えている。
ホームレス状態にある生活困窮者と地域や旅人との交流活動	計画通り	当団体の困窮者受け入れの活動に賛同し生まれた地域の活動がいくつもあった。①地域清掃ボランティアの方々が食材を持ち寄り、入居者を交えたBBQを行った。②受け入れ事業を行なっていることが契機となり、当団体が主催となって炊き出しを行なったところ、大量の食材や寄付が集まり、地域との繋がり、結束が強まった。その他、細かなものも入れると多くあるが、交流活動という目的に関しては、計画以上のものがあったと思われる。
支援付き住宅の供用開始による生活支援	遅延あり	現在、コロナウイルス感染症の影響が長引き、収束が見えにくい状況となっている。その為、新たな支援付き住居を契約し、生活支援を進めていくには本業との兼ね合いの中で難しい状況となっている。状況を引き続き見定めたい。
生活困窮者への能力開発	ほぼ計画通り	若い入居者への相談に乗ることも多く、それぞれへの持ち味への尊重はできていた。年齢を重ねている入居者の人に対しては、それまでに培った技術を持った人も多く、宿を管理する上での業務に少しだけ協力してもらったり、退去後に仕事をお願いしたりなど、の予想していなかったことも起こっている。小さな事柄がひとりひとりの自尊心を保っていると感じる瞬間が多々あった。

Ⅳ. 事業実施後（1年以降）に目標とする状態への所感（中間時点）

自由記述
○UNTAPPED HOSTEL：交流機能の強化・支援付き住宅の供用により、ホームレス状態の生活困窮者に対する居住支援の拡充、社会的孤立に対する新しいアプローチについての有意性を明らかにし、新規参入するゲストハウスを1件増加させる。 →UNTAPPED HOSTELが直接契約して、棟を増やしての支援付き住宅の拡充は現時点で厳しいものと捉えているが、他地域のゲストハウスが本事業の取り組みに興味を持っていることがいくつか確認され、新規参入という形での拡充は**大いに考えられる。一箇所が抱える形よりも多地域連携型の方がこういった支援事業の場合はケアが行き届くのではないかという感想を持った。** ○ゲニウス・ロキが旅をした：シェルターのない地域に、ゲストハウスを活用したシェルター運営のノウハウ移転。本事業終了後の宿泊費負担に関しては、行政による制度化を目指す →現在鋭意進行中。この事業を通じて得たノウハウは他地域にも援用できるもので、小樽のゲストハウスが関心をもっており、新規参入の可能性を見出している。また、行政による制度化も様々な角度から可能性を引き続き探っている。

○

Ⅴ．インプット

		2020年度	2021年度	合計	執行金額	執行率
事業費	実行団体への助成に充当される費用	¥2,591,000	¥1,449,000	¥4,040,000	¥2,905,497	72%
	管理的経費	¥480,000	¥480,000	¥960,000	¥480,000	50%
合計		¥3,071,000	¥1,929,000	¥5,000,000	¥3,385,497	68%

補足説明	

Ⅵ. 事業上の課題

事業実施上顕在化したリスク/阻害要因とその対応
入居者同士のトラブルは数度あった。そこで抱えてしまうストレスが社会復帰の阻害になる可能性を考えると、 ①スタッフのより注意深い観察 ②スタッフのコミュニケーション力の強化 ③ルールの事前説明の徹底など

Ⅶ. その他

自由記述

Ⅷ. 広報実績

広報内容	有無	内容
メディア掲載（TV・ラジオ・新聞・雑誌・WEB等）	有	2/6の北海道新聞朝刊に「ゲストハウス 再起の場に」という形で特集が組まれた。その他、STV、HTBなど北海道の地方局の夕方の番組など、取材依頼があったが入居者のプライバシーや本来の目的を違わぬようにお断りすることがあった。
広報制作物等	有	札幌のデザイン会社が毎月発行している「庭しんぶん」という媒体にUNTAPPED HOSTEL代表の神が受け入れ事業を通じて感じたことなどを書く連載を持つことになった。
報告書等	無	

Ⅸ. ガバナンス・コンプライアンス実績

ガバナンス・コンプライアンス体制	状況	内容
1. 社員総会、理事会、評議会は定款の定める通りに開催されていますか。	はい	
2. 内部通報制度は整備されていますか。	はい	
3. 利益相反防止のための自己申告を定期的に行っていますか。	はい	
4. 関連する規程の定めどおり情報公開を行っていますか。	はい	
5. コンプライアンス委員会は定期的に開催されていますか。	はい	